

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：34514

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04898

研究課題名（和文）グローバルに発信する日本の伝統・文化を生かした教育モデル - 身体表現コアプログラム

研究課題名（英文）An Education Program for Global Communication Using Japanese Tradition and Culture: Bodily Expression Core Program

研究代表者

畑野 裕子（HATANO, YUKO）

神戸親和女子大学・発達教育学部・教授

研究者番号：80167585

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、「日本の伝統・文化」を生かし、「身体表現」（舞踊や所作等）に関して、教育現場から、グローバルな発信を目指すことであった。具体的には、文献資料の検討、専門学校における身体表現授業後の受講生の質問紙調査結果に関する分析、大学生を対象としたプログラムの実践とその質問紙調査結果による検討を試みた。

なお、研究成果は、学会発表等により公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学校教育の現場では、現代社会のグローバル化への対応を背景に、様々な取り組みがなされている。そして、日本の伝統・文化を世界に発信する教育は、社会的なニーズや教育改革の展望を背景に、火急となっている。本研究の学術的意義や社会的意義は、これらの課題を解決するために、学校教育現場から、グローバルに発信できるような「日本の伝統・文化」における「身体表現」プログラムに関して検討を試みたことである。このような観点に基づく研究は、数少なく、今後、研究の発展の基盤になると期待される。

研究成果の概要（英文）： This study focuses on presenting an education program using bodily expression, consisting of dance and body movement, as part of global communication using Japanese traditions and culture from the classroom. The author reviewed literature related to the topic and conducted analysis of responses to questionnaire surveys completed by students at a vocational school who took an educational program on bodily expression as well as responses to questionnaire surveys completed by university students after completing the core program on bodily expression.

The research results were reported at an academic conference and on other occasions.

研究分野：教科教育学

キーワード：グローバル 日本の伝統・文化 身体表現

1. 研究開始当初の背景

平成元年の学習指導要領において「国際化に対応した教育」が提唱され、平成10年の小中学校学習指導要領告示、平成11年の高等学校学習指導要領告示により、総合的な学習の時間が創設された。その際、実践例として、「国際理解、情報、環境、福祉・健康」の4分野が例示された。

近年、新たに「日本の伝統・文化」に関わる教育事業や実践が始められているものの、これまで学校教育における総合的な研究は、数少ない。その中で、平成15年『和 문화의 風』を学校に - 心技体の場づくり』の出版は、画期的な実践研究であり、本研究者は自身の実践事例を報告している。

一方、平成20年の学習指導要領の改訂において、中学校の体育科では、武道とダンスが男女とも必修となり、ダンス教育の重要性が強調されている。ダンスの学習指導内容や方法に関する研究は、様々なアプローチによりなされているものの、日本の伝統舞踊は、現在、民踊以外に取り扱いはない。近年のグローバル化を目指す学校教育の現場では、総合的な学習における国際理解、海外修学旅行や国際交流活動において、日本人として、日本の伝統的「身体表現」に関する知識や経験も必要である。しかしながら、伝統的「身体表現」と現代のダンスの専門家が連携できず、総合的な検討には至っていないのが現状である。

このように、「日本の伝統・文化」を生かした教育モデルに関して、「身体表現」の観点からの研究は数少なく、今後さらに日本独自の研究を重ねることで、国際社会への強力なメッセージになると推察される。そこで、以上のような学術的背景に基づき、本研究を試みるに至った。

2. 研究の目的

本研究では、グローバルに発信する「日本の伝統・文化」を生かした「身体表現」の教育モデルを検討することを目的としている。

3. 研究の方法

「日本の伝統・文化」や「身体表現」とその教育に関する研究について、国内・国外における文献、研究論文、学会における研究発表資料やインタビューなどによって、資料(実践資料等も含む)を収集した。その中でも、総合的な学習の時間における「国際理解」教育の資料について、その研究動向を検討した。また、「身体表現」に関しては、野口三千三の身体観を手がかりとして、野口体操に関する貴重な実践資料について調査結果を分析した。そして最後に、「グローバルに発信する日本の伝統・文化を生かした教育モデル - 身体表現コアプログラム」として、本研究者が、女子大学生(合計100名:有効回答者86名)に対してプログラム授業を実施した。

4. 研究成果

まず、「日本の伝統・文化」や「身体表現」とその教育に関する研究について、国内・国外で発表された研究論文等の資料を収集した。その結果、幼稚園から高等学校における「身体表現」の学習経験の有無に関する調査をみると、小学校での「表現運動」の授業において、振付けられたダンスやよさこい系の踊り(よさこい踊りやYOSAKOIソーラン等の踊りの総称とする)によるものが多いという報告がみられた。このような授業内容等に関しては、別の機会に詳細な検討を要すると思われるが、よさこい系の踊りに関しては、運動会や海外との国際交流の場面においても実施されており、広く教育現場でも普及していることが示唆された。そこで、初年度は、よさこい系の踊りに着目した資料を中心に収集を行った。これらの研究結果については、学会において発表した。

次に、グローバルに発信する「日本の伝統・文化」に関して、文化理解の観点から検討を試みた。総合的な学習の時間における国際理解に関する研究を概観すると、様々なアプローチがなされているが、2017年の学習指導要領の改訂を機に、これらの論文をレビューする必要があると考えた。具体的には、CiNii登録論文(本文掲載を有する論文)を対象に、国際理解教育をキーワードとして論文検索し、それら論文名について、テキストマイニングによる検討を試みた。その結果、抽出語としては、英語、社会等が数多くみられた。しかし、身体に関しては、ごく僅かしかみられなかった。身体に関わる論文をみると、横田は、国際理解教育について、「からだそのもの」に根ざした理解のあり方に注目し、野口三千三の身体観を手がかりとして、文化を流体としてとらえる視点から論じている。しかし、具体的な野口体操の実践については、記されていない。

また、「身体表現」に関連して、世界に知られる日本文化をみると、伝統文化(能、狂言、歌舞伎、日本舞踊等)に加え、現代の日本独自の前衛的な身体芸術として、Butoh(舞踏)があげられる。ButohダンサーのKasaiは、西洋的な「身体表現」技法とは異なる野口体操のコンセプトについて言及している。しかしながら、教育現場における野口体操の実践は、三上らの報告がみられるものの、数少ないようである。

そこで、この野口体操に関する貴重な実践資料(野口三千三氏に師事した指導者が実施した「身体表現」の授業における受講者の回答)の提供が得られたため、その資料について検討を試みた。2018年度は、その野口体操実践における質問紙回答について分析し、その結果を2018AIESEP World Congressにおいて発表した。さらに、それまでに得られた野口体操に関する貴重な実践資料について追加資料の提供を受けたため、2019年度は追加的分析を行い、The 24th Annual ECSS Congressにおいて発表した。

最後に、「グローバルに発信する日本の伝統・文化を生かした教育モデル - 身体表現コアプログラム」として、本研究者が、女子大学生100名(有効回答者86名)に対してプログラム授業を実施した。主な内容は、日本の伝統的な身体様式としての正座とお辞儀の所作体

験と「身体表現（日本舞踊やよさこい系の踊り）」に関する解説であった。実施後の質問紙調査の結果、所作体験の後では、正座やお辞儀の姿勢や礼儀などに対する肯定的な反応がみられた。また、「身体表現」に関しては、日本の文化（日本舞踊やよさこい系の踊り）に関する理解が深まり、日本の文化を海外に伝えたいという意見がみられた。今後、このような「日本の伝統・文化」を生かした所作体験や「身体表現」に関する学習プログラムについて、グローバルに発信し続けることが重要と思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 畑野裕子 | 4. 巻 第16巻 |
| 2. 論文標題 「国際理解教育」の研究動向に関する一考察 CiNii掲載論文のタイトルに対するテキストマイニングを用いて | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 神戸親和女子大学大学院研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 37-47 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 保育士・教員養成課程における健康教育に関する一考察 野口体操の授業における学習経験を中心に | 4. 巻 第16巻 |
| 2. 論文標題 畑野裕子・大竹留美・滝口由美子 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 神戸親和女子大学大学院研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 49-57 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yuko Hatano, Motoko Kuyama |
| 2. 発表標題 An Observation of a Student's Experience of a Yosakoi Dance: An Example of the Grassroots in Japanoguchi |
| 3. 学会等名 World Dance Alliance Global Summit 2017（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 畑野裕子 |
| 2. 発表標題 表現学習におけるDVD教材鑑賞による学習者の理解に関する一考察 「YOSAKOIソーラン」を対象として |
| 3. 学会等名 日本教材学会東海・近畿・北陸支部平成29年度研究会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yuko Hatano・Rumi Otake |
| 2. 発表標題 A Practical Study of Noguchi Taiso in Creative Lesson at Vocational School in Japan |
| 3. 学会等名 2018AIESEP World Congress (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yuko Hatano, Rumi Otake |
| 2. 発表標題 A Practical Study of Noguchi Taiso in Creative Lesson at A Vocational School in Japan : Effectiveness of Its Repetitive Experiences During Two Years |
| 3. 学会等名 The 24th Annual ECSS (European College of Sport Science) Congress (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
| | | | |